

<p>経済・経営</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 開発途上国の持続可能な開発と国際協力</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 開発途上国 ■ 貧困削減 ■ 経済開発 ■ 農村開発 ■ インフラ開発 	<p>【1】研究テーマ</p> <p>「開発途上国の持続可能な開発と国際協力」を研究テーマとして、開発途上国にとって開発は必要なのか、必要であるならばどうすれば経済開発は軌道に乗るのか、また開発途上国の開発のために先進国や国際機関が行っている公的援助は必要なのかについて研究しています。特に開発途上国の人々の生活水準を向上させるためには欠かせない貧困削減、教育開発、農村開発などを研究の中心としています。</p> <p>具体的には日本や韓国における長期的な経済開発の過程を分析するとともに、このような先発国の開発経験は東南アジア諸国の経済・社会開発に適用可能であるかについて分析しています。</p>
 <p>金 秉基 Byoungki Kim</p> <p>経済学部 教授</p>	<p>【2】開発途上国の現状</p> <p>今、世界のいろんなところで貧困、紛争、テロ、独裁政権、環境破壊、感染症の蔓延、自然災害などさまざまな問題が発生しています。このような問題のほとんどは開発途上国で起きています。開発途上国の貧困層は、教育を受ける機会さえ十分に与えられず、先進国による経済危機、紛争やテロ、自然災害などの影響に脆弱で、それが原因で貧困がさらに悪化するリスクに晒されています。世界銀行の報告によると、開発途上国の4人に1人が1日1.25ドル以下の生活を強いられています(2005年)。飢饉や病気により5歳の誕生日を迎えることなく命を失う子供も大勢います。このような状況のなか、先進国や国際機関が行っている開発援助は開発途上国の貧困削減のために欠かせないものです。</p>
<p>【プロフィール】</p> <p>●専門分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発経済 ・アジア経済 <p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1998年 韓国外務省 ・2003年 神戸大学大学院 国際協力研究科 博士後期課程 修了 ・2005年 同研究科の ラオスプロジェクト研究員 ・2008年 滋賀大学 経済学部 准教授 ・2016年 経済学部 教授 <p>【主な社会的活動】</p> <p>●所属学会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際開発学会 ・アジア政経学会 ・現代韓国朝鮮学会 ・韓国通商情報学会 <p>【研究テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困削減と農村開発 ・経済開発とインフラ開発 	<p>【3】開発プロジェクト</p> <p>「ラオス国立大学経済経営学部支援プロジェクト」の研究員(平成17年～19年)として、ラオスの教育開発に携わりました。ラオス国立大学経済経営学部で①同学部教員の授業能力及び研究能力の調査、②経済理論や社会調査についての指導、③アンケート調査、データ収集及び分析方法についての指導、④教科書、カリキュラム、シラバスの現況調査及び作成についての指導など教育開発のための活動を行いました。また、若手教員のフィールドワーク能力向上のために、縫製工場をまわりながらデータの収集や分析を行いました。平成19年度は、同学部の教員や学生とともにラオス農村部の所得・消費・貯蓄などの家計調査を行い、平成20年度はラオス山間部の焼畑について調査を行いました。平成22年度～24年度は、ラオス農村開発におけるインフラの経済的効果を調べるために農村の家計調査を行いました。</p> <p>【4】今後の抱負</p> <p>開発途上国には、経済開発に成功して豊かになっている国や地域もあれば、いまだに経済開発の糸口さえ見出せない国や地域も存在しています。開発途上国の貧困削減は開発途上国の発展のみならず、国際社会の平和と繁栄のためにも不可欠なものです。東南アジア諸国が抱えている複雑な問題を正確に調査・研究するために、先進国の開発経験や国際機関が行っている援助理論だけではなく、開発途上国の人々の目線で「開発と援助」を考えていきたいと思っています。</p>
	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>インドシナ半島、特にラオス、ミャンマー、カンボジアにおける貧困問題と農村開発、インフラ開発に関する共同開発・共同研究を希望します。</p>